



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 三種町立山本中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：山田 優梨菜 先生（スキー／ジャンプ）【出場オリンピック／ソチ2014冬季大会】

■期 日：2024年9月6日(金)

■ク ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ソチ2014冬季大会のスキー／ジャンプ競技に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、皆と一緒に学ぶ時間になりたい。屈伸、伸脚等の準備体操を行った後、体育館の床のライン上だけを移動し、指定した順番に全員が並ぶゲームを実施。1回目は出席番号順に並び、2回目は誕生日の早い順番に並び、3回目は身長の高い順番に並び、整列が完了した時間を計測する。移動中は足を止めずに歩き続け、途中で友達と対面しないように、進む先を見ながら上手く歩く。

○主運動等



・主運動は滑走リレーを実施(全3回)。片足にモップシューズを履き足を滑らせながら前に進み、折り返し地点を回って戻り次の人がスタートする。順位にポイントをつけ、3回の合計ポイント数を競う。1回目はモップシューズを右足に履き、2回目は左足、3回目は左右どちらに履いても良い。途中、作戦タイムを設け、走順や上手く滑る方法を班で話し合う。体の重心を低く前傾姿勢で滑ると良いとアドバイス。ジャンプ競技でも、重心の位置やバランスはとても重要だ。



・運動の時間を振り返り、皆がチームのために一生懸命取り組んだり、速く滑るための工夫をしたことはエクセレンス、大きな声で仲間を応援したことはフレンドシップ、ルールを守りチームのために頑張ったことはリスペクトだ。皆の行動の全てがオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自分の経験談を通してオリンピックバリューを考え、皆は運動の時間に感じたことを振り返り、皆自身のオリンピックバリューを考えてほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：山田 優梨菜 先生 (スキー／ジャンプ) 【出場オリンピック／ソチ2014冬季大会】

■ **期 日**：2024年9月6日(金)

■ **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・競技映像とスライドを見ながら自己紹介。9歳から競技を始め、オリンピックに出場するまでの道のりは、決して順調ではなく、大きな怪我やスランプもあった。しかし、諦めずに努力し続けたからこそオリンピックに出場することができた。自分1人の努力だけではなく、頑張り続ける原動力となったのは、沢山の人の応援や協力、周囲のサポートのお陰であり、感謝の気持ちだ。その方々に恩返しをしたいという思いでオリンピックに臨んだ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたことや、日常生活で感じていることを、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「失敗しても諦めない」「部活動の試合で必ず勝ちという気持ち」「ベストを尽くす」「自分の役割を果たす」等

フレンドシップ：「仲間全員で勝つ気持ちを持つ」「声掛け」「話し合う」「和気あいあい」「相手を思いやる」「支え合う」等

リスペクト：「ルールを守る」「大会関係者や審判、監督に感謝」「給食を作ってくださいる方に感謝」「家族に感謝」等



・皆にとって、オリンピックは遠い世界と感じるかもしれないが、オリンピックバリューについて深く考えたことで、身近に感じただけではなく、普段から実践していることが多いことに気付いたと思う。学校で勉強できる環境や友達と過ごす時間は、決して当たり前のことではない。サポートしてくれる先生、家族、友達にも常に感謝の気持ちを忘れないでほしい。壁にぶつかることもあると思うが、諦めずに何事にもチャレンジしてほしいと話し、授業終了。

■修了証贈呈

